

感染症指定医療機関ではない当院で 発生したCOVID-19感染の対応

社会医療法人 鴻仁会

岡山中央病院 透析センター

植本健太：1	田中裕也：1	横山晃一：1
秋山愛由：2	斎藤大輔：2	森岡 茂：2
岡山中央病院	臨床工学技士：1	
岡山中央病院	腎臓内科：2	



中四国臨床工学会 COI 開示

筆頭発表者名： 植本 健太

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業などはありません。

はじめに

- COVID-19(新型コロナウイルス)は国内では、2020年3月より猛威を振るい現在感染者は2000万人を超えました。
- 透析患者においては、重症化しやすいため入院の対象となっている。
- 昨年4月には第4波が到来し、岡山県下の感染症指定医療機関はひっ迫した状態となり、透析患者の受け入れが困難な状態に陥り、各病院は対応を迫られることとなった。

経過

- 前述の情勢の中、当院では昨年4月下旬から5月中旬の間で、維持透析患者7名（男性6名女性1名）の新型コロナウイルスがPCR検査で陽性と判定される。

この内4名を感染症指定医療機関ではない当院で、新型コロナウイルス感染患者専用フロア（専用フロア）を用意し、隔離して入院・透析治療を行ったので、その対応について報告する。

方法（対応） 1

～透析センターでの対応～

透析センターでの感染拡大防止について

- 外来透析・入院病棟との接触がないように患者とスタッフの出入口・エレベーター・更衣室の動線の変更をした。
- コロナウイルスに感染していない入院患者を外来透析終了後、午後より透析治療を行うことで時間的隔離をした。

本館



東館

方法（対応） 2

～専用フロアでの透析対応開始前～

感染症指定医療機関への入院調節が
できない患者を想定し・・・

⇒PPE着脱の訓練を行っていた。

⇒配管工事を行い透析治療の出来る
環境を整えていた。

専用フロアに 増設した配管

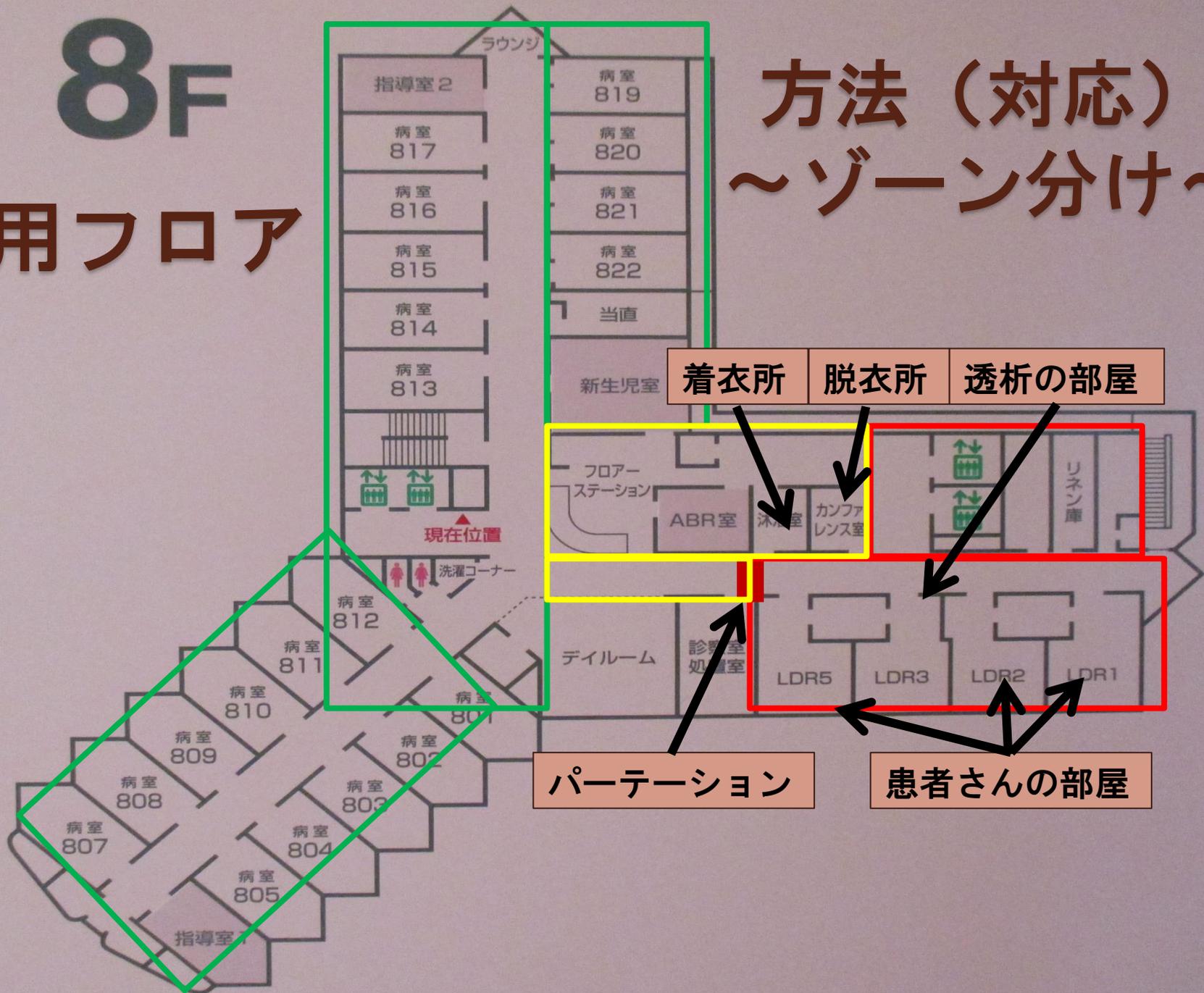
個人用
水処理装置



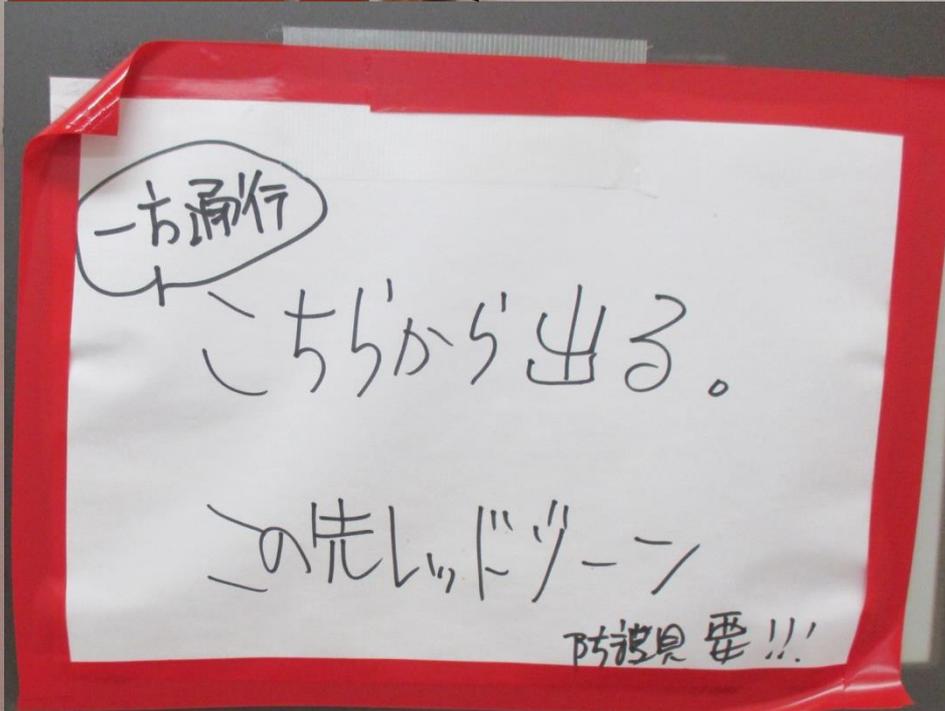
8F

専用フロア

方法（対応） ～ゾーン分け～



PPE着衣所



方法（対応） 3

～PPE着脱～

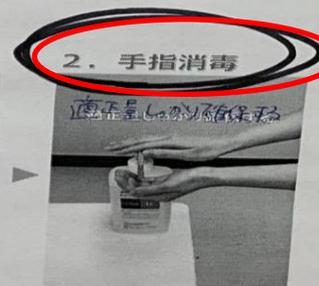
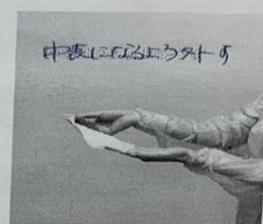
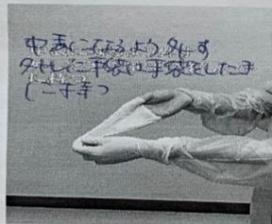
- P P E 着衣の際、長袖エプロンの袖にサムホールを開け、手首がエプロンから出ないようにし、ゴム製の手袋でエプロンの袖を覆うようにした。
- 手袋は、ゴム製の手袋と、ポリ塩化ビニルの手袋を使用し、常に二重になるようにした。
- P P E 脱衣の際、一つ一つの動作の間に自動噴霧されるアルコールで消毒をした。



外すとき

※マスク以外の防護具は患者エリアで外す
※外した防護具は感染性廃棄物として廃棄

1. 手袋



2. 手指消毒

3. 長袖ガウン (上)

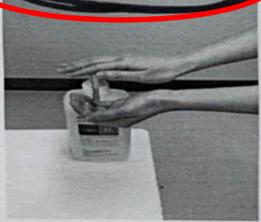


4. 手指消毒

5. 長袖ガウン (下)



6. 手指消毒



7. フェイスシールド



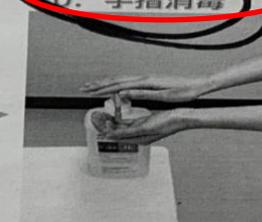
8. 手指消毒



9. ソフトキャップ



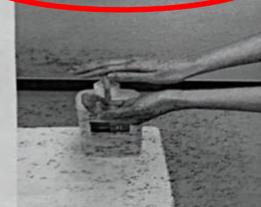
10. 手指消毒



11. サージカルマスク



12. 手指消毒



着脱場所

- ICU8室、B棟2階感染症病室エリア (前室あり)
 【着ける場所】前室手前の廊下
 【はずす場所】手袋・長袖ガウン・フェイスシールド・ソフトキャップ・・・前室
 サージカルマスク・N95マスク・・・前室手前の廊下
- 特殊診察室、救急外来 (前室なし)
 【着ける場所】患者エリアに入る前
 【外す場所】手袋・長袖ガウン・フェイスシールド・ソフトキャップ・・・患者エリア内
 サージカルマスク・N95マスク・・・患者エリアを出た後

方法（対応） 4

～透析治療について～

- 体重測定は一般のデジタル体重計を使用した。
- 記録は透析システムアプリ搭載のタブレットPCを使用した。
- 様々な菌・ウイルスに有効と言われている次亜塩素酸水を加湿器で噴霧し、ウイルス減少を図った。

考察

- 新型コロナウイルス感染症患者の透析治療は、当院のような感染症指定医療機関ではない施設において、感染拡大防止の為、設備の整備、材料の補充、スタッフの確保と教育が必要で、負担が大きい。そんな中、配管の造設やフロアの確保、感染が発覚した時の時間的空間的隔離をどのようにするか事前に病院として出来る事を考え、備える事で、二次感染を最小限に抑えることができたと考えます。
- また、今回透析患者7名の感染者が発生し、これ以上の拡大をさせない対応を迫られ、一人一人が感染への意識をする事で、院内への拡大を防いだのだと考える。

結語

感染症指定医療機関でない当院でも、専用フロアの確保や、一般的な感染対策、多職種の支援体制や、配管造設による透析環境の整備が行えたことにより、院内への感染拡大防止につながった。